

道の駅あかいわ（仮称） 整備方針検討資料

2023年（令和5年）5月

岡山県赤磐市



1-1 市の現状と課題（岡山県赤磐市）

【概要】

岡山県南東部に位置し、「平成の大合併」により平成17年3月7日に赤磐郡内の山陽町、赤坂町、熊山町及び吉井町の4町が合併して誕生。北部は美咲町、久米南町、東部は和気町及び備前市、南部は岡山市にそれぞれ隣接している。

人 口 42,661人 （R2国勢調査より）

世帯数 16,439世帯

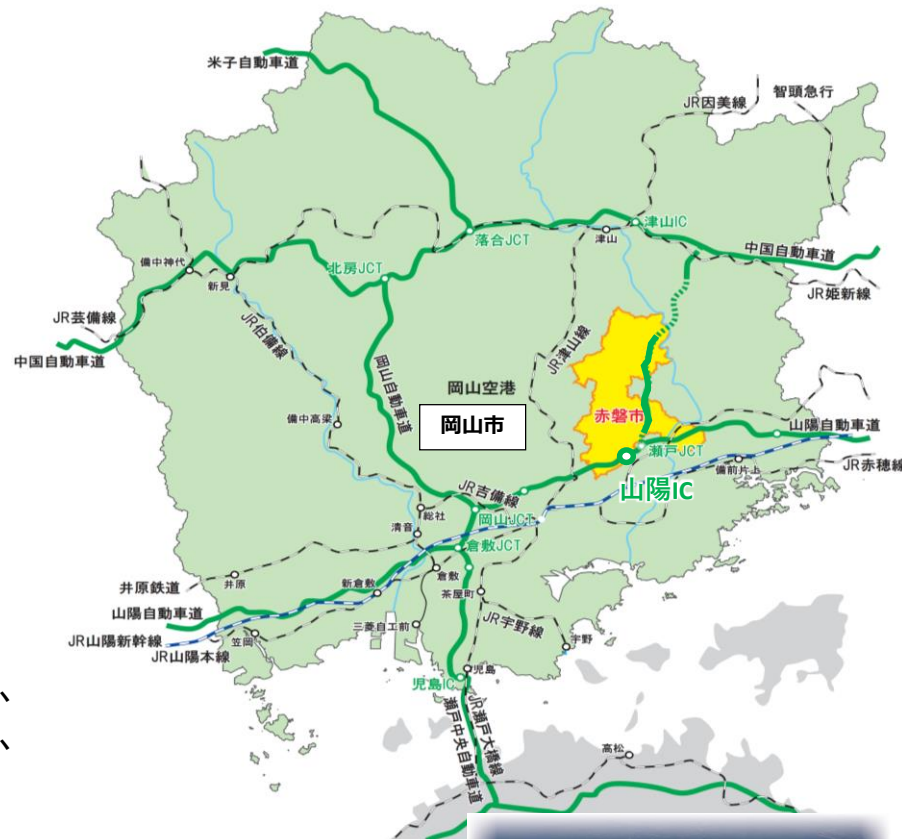
総面積 209.36km²

【環境】

晴れの国岡山の中でも年間を通して降水量が少ない温暖な気候に恵まれており、自然災害が少ない。豊かな自然を生かして、水稻、ぶどう、白桃、黄二などブランド力の高い農作物を生産。また、多くの史跡や由緒ある神社など地域に根付いた歴史と伝統文化がある。

【交通】

赤磐市は広域交通結節点となる県都に隣接している。市の南部には山陽自動車道の山陽ICが位置し、南北には地域高規格道路の美作岡山道路や広域農道の整備も進められ、道路交通網が充実しているが、旧山陽町には鉄道の駅がなく、公共交通はバスに依存している。



赤磐市（南部地域）



1-2 市の現状と課題（交通）

道 路

- **市の南部には山陽自動車道の山陽 I C**
（大阪方面へは 3 社が高速バスを運行、大阪駅まで約 2 時間半）
- 岡山市とを結ぶ県道「岡山吉井線」が市内を縦断
- 県東部の南北を結ぶ地域高規格道路の**美作岡山道路が現在建設中、市内に 2 箇所の I C を設置**（一部区間は既に共用開始）

【山陽 I C（山陽自動車道）からの距離、所要時間】

区 間	距離 (km)	所要時間
中国自動車道 中国吹田 I C	154.8 km	1 時間 57 分
山陽自動車道 広島 I C	162.3 km	2 時間 02 分
山陽自動車道 山口南 I C	289.9 km	3 時間 39 分
九州自動車道 福岡 I C	439.0 km	5 時間 33 分
高知自動車道 高知 I C	170.3 km	2 時間 17 分
米子自動車道 米子 I C	147.0 km	2 時間 03 分

資料：西日本高速道路(株)



その他の公共交通機関

- 市の南東部の端に J R 山陽本線「熊山駅」
- 岡山市にある J R 山陽本線「瀬戸駅」までは、市の中心部から約 4 k m
- 岡山市中心部へは路線バスが運行（岡山駅まで約45分）
- 環境負荷の低減等のためパーク&バスライドを整備





赤磐市の新たな拠点構想（イメージ）

○新たなまちの拠点エリアの中核施設として道の駅を整備

○新たな拠点には、賑わいや交流施設を配置

○市の玄関口（顔）となり、中心となる「つながり」「交流する」エリア

○ハブ機能を持った新たな交通結節点の整備

道の駅 あかいわ（仮称）



都市機能誘導区域及び都市機能誘導準備区域



3-1 休憩施設の必要性（周辺観光地）

○岡山市東部エリアに集客性の高い施設が点在しており、赤磐市北部にも観光施設があるが、休憩施設が無いため通過地点となっている。



くだもの狩り



吉井竜天オートキャンプ場



熊山遺跡（国指定遺跡）



両宮山古墳（国指定史跡）





3-2 休憩施設の必要性（交通量）

道路交通センサス（H27）

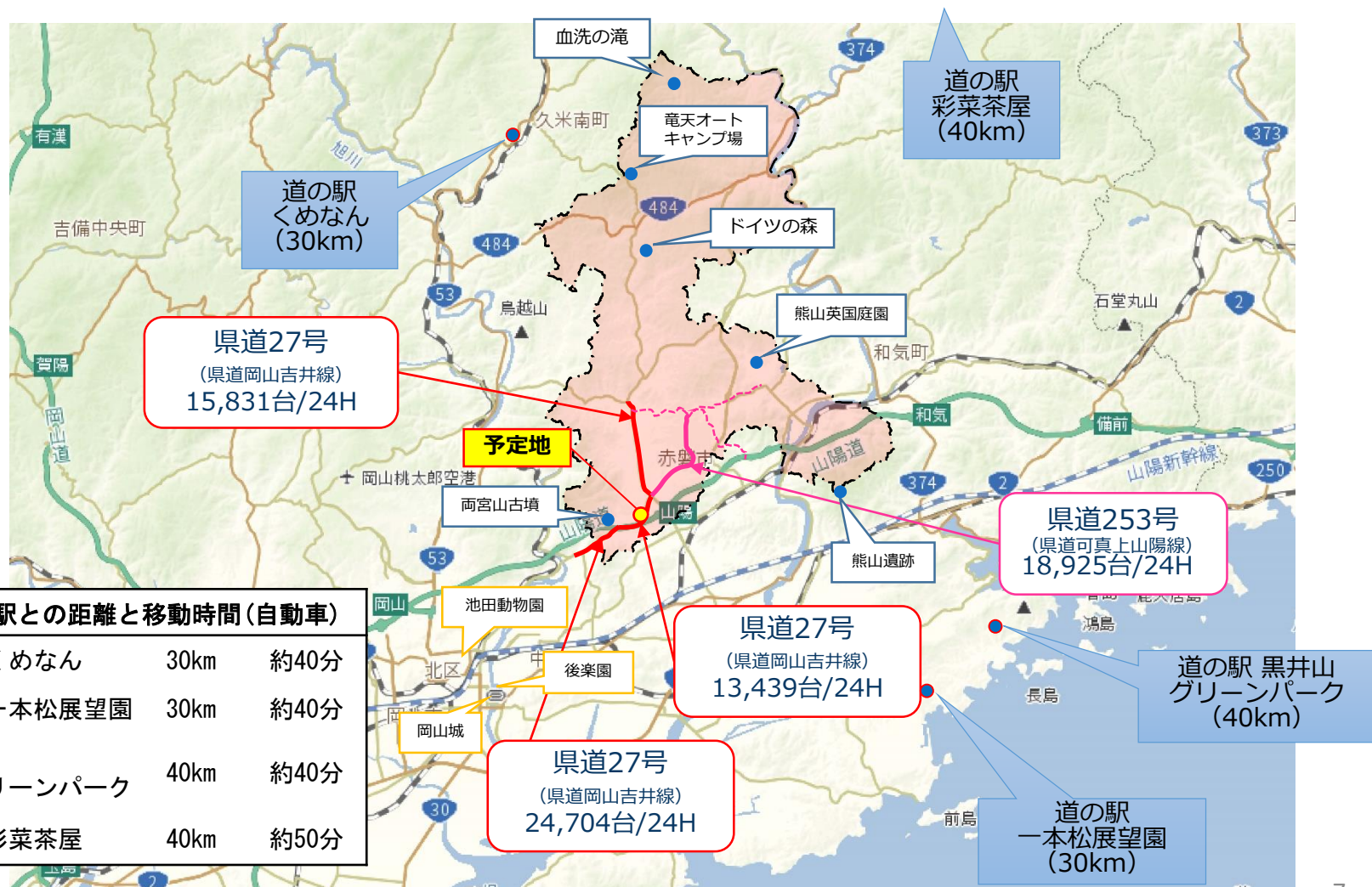
赤磐市

○岡山県東部及び北東部からの交通需要があり、東の玄関口となっている。





- 赤磐市内から周辺観光地へ向かう際に、情報等が集約された利便性の高い施設がない。
- 道路休憩施設配置すべき距離（標準間隔15km、最大間隔25km）に施設がない。





4 道の駅の概要（コンセプト）

基本方針

ヒト・モノ・情報が、市内外で、つながり交流する道の駅 あかいわ

ヒトとつながる！ 冒険・遊び・憩い の拠点

子育てしやすく暮らしやすい市のシンボルとして、こどもが楽しめ、三世代が交流できるなど、ヒトとヒトがつながる場として、冒険・遊び・憩いの拠点を形成し、まちの魅力をPRする

モノとつながる！ あかいわの物産品や 食に出会う空間

赤磐市が誇る主要農産物である白桃を中心に、市内外からの来訪者がブランド力の高い物産品に触れ、味わうことができるなど、ヒトとモノがつながる魅力ある空間を形成する

情報がつながる！ 交通・ビジネス・交流 の拠点

交通結節機能、情報発信機能、休憩機能、地域連携機能を兼ね備え、市内外からの来訪者が求める情報を入手・活用するなど、ヒトと情報がつながり、吸引力のある拠点施設としてにぎわいを創出する

市外とつながる！ 広域ネットワークを 活かしたエントランス

山陽自動車道山陽ICに隣接する広域ネットワークを活かし、市外来訪者が市内観光地や特産品産地などを巡るエントランスとして、また、大規模災害における救援物資の受入・集積・調整拠点として活用する

市内がつながる！ 地域との連携による 新拠点の核

周辺に立地する多様な施設（商業、宿泊、産直市、児童館、ゴルフ場等）や地元団体、民間企業、市内4地域（山陽・赤坂・熊山・吉井）が連携し、赤磐新拠点の核を形成する



5 道の駅の概要（コンセプト）

○従来の道の駅の3つの基本機能（休憩・情報発信・地域連携）に加え、基本方針を実現するために必要な機能の具体を整理した。

■コンセプト図

基本方針

ヒト・モノ・情報が、市内外で、
つながり交流する道の駅 あかいわ

ヒトとつながる！
冒険・遊び・憩いの拠点

モノとつながる！
あかいわの物産品や食に
出会う空間

情報がつながる！
交通・ビジネス・交流の拠点

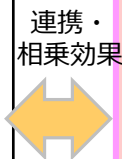
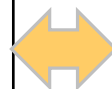
市外とつながる！
広域ネットワークを活かした
エントランス

市内がつながる！
地域との連携による新拠点の核

地域連携
経済効果
魅力創出

道の駅への 導入機能

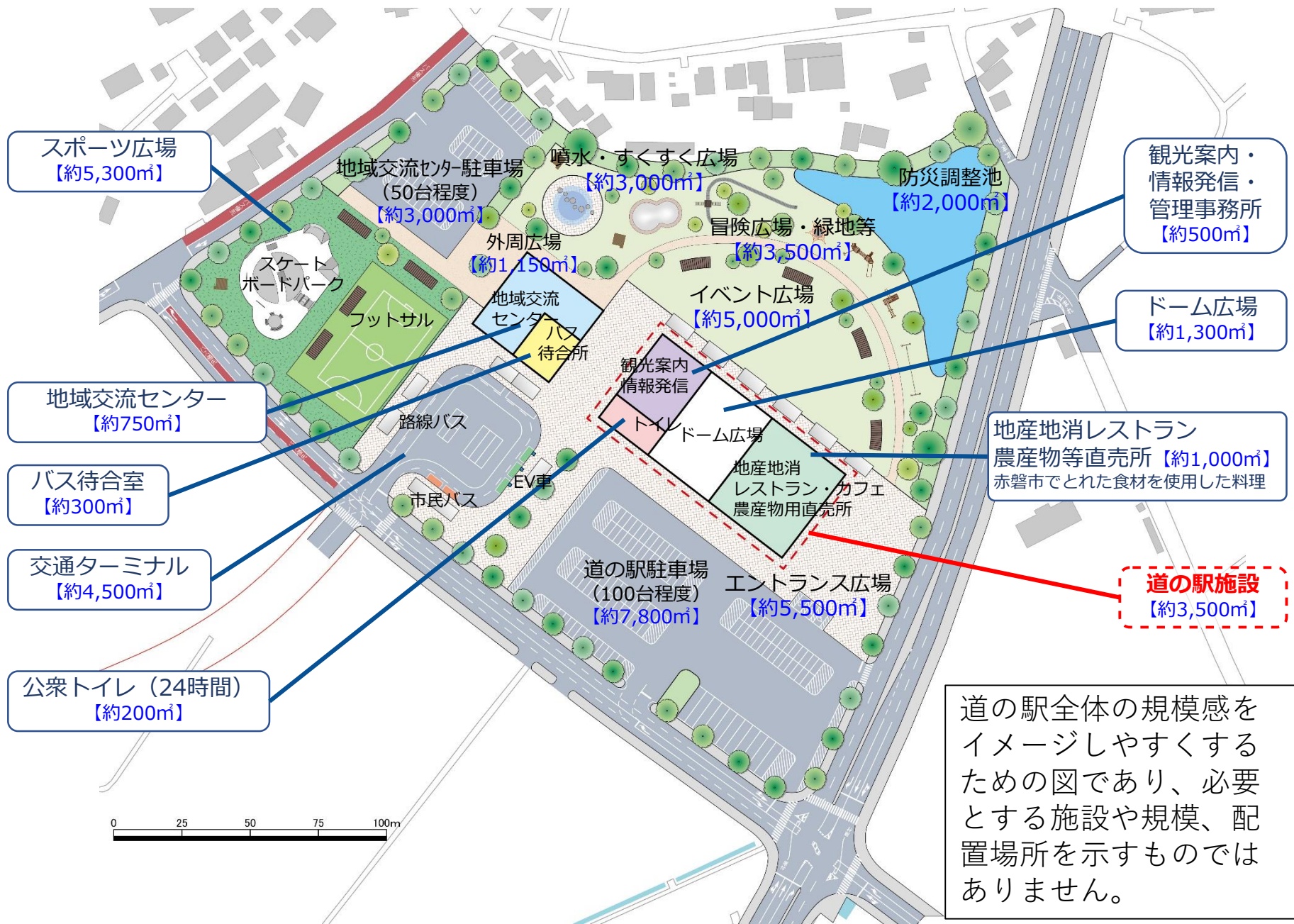
	市内	市内外	市外
ヒト	<p>休憩機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 駐車場、トイレ ・ 授乳室、休憩スペース <p>地域連携・交流機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域交流センター ・ エントランス広場 ・ すくすく広場 ・ スポーツ広場 ・ イベント広場 		
ヒト・モノ	<p>物販機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 物産、農産物直売所 ・ 地産地消レストラン <p>防災機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防災調整池 ・ 災害時の物資拠点（ドーム広場） ・ 防災ベンチ、あづまや 		
ヒト・情報	<p>交通結節機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 交通ターミナル ・ バス待合室 <p>情報発信機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習施設 ・ 情報発信施設 ・ 観光案内施設 		



周辺施設との連携



6 道の駅のイメージ図





7-1 道の駅の概要（面積規模と屋内機能イメージ）赤磐市

■屋外空間を含め整備を想定する施設と面積規模

用地	整備を想定する施設		施設の想定面積（㎡）		
	施設分類	小項目	小分類	中分類	大分類
道の駅 用地	a	駐車場（誘導路等を含む）		7,800	7,800
	b	建築物	トイレ	200	3,200
			観光案内・情報発信	300	
			管理事務所	200	
			地産地消レストラン	500	
			物産品・農産品販売	500	
			通路	200	
			ドーム広場（半屋外）	1,300	
	c	交通ターミナル		4,500	4,500
	d	外構部分 （エントランス広場等）		5,500	5,500
その他 用地	e	地域交流 センター	建築施設	750	5,200
			バス待合・休憩・学習	300	
			外周広場	1,150	
			附帯駐車場	3,000	
	f	噴水・すくすく広場		3,000	8,000
	g	スポーツ広場		5,300	
	h	イベント広場		5,000	10,500
	i	冒険広場・緑地		3,500	
	j	防災調整地（4.5haの開発に対応）		2,000	
合計			45,000	44,700	45,000

■屋内機能イメージ



トイレ



ベビーコーナー



バスターミナル



バス待合い・休憩スペース



観光案内・情報発信



モバイル・学習コーナー



地産地消レストラン・カフェ



物産館・直売所



子育て支援施設



体験型子供施設



7-2 【参考】導入機能のイメージ



イベント広場



ドーム広場



エントランス広場



スポーツ広場



噴水・すくすく広場



路線バス・市営バスターミナル・サイクルラック



冒険広場



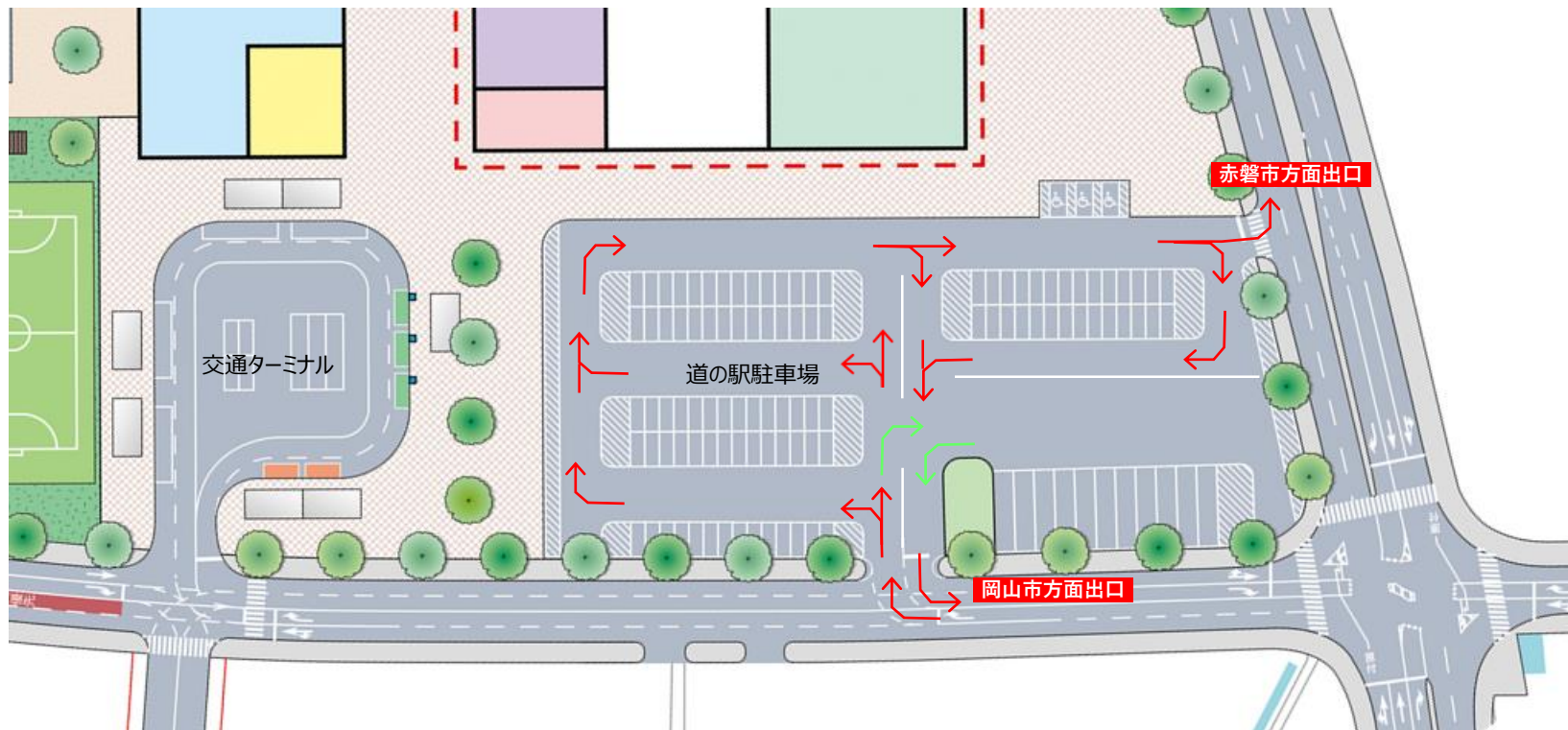
小型モビリティ（カーシェアリング）





7-3 【参考】導入機能のイメージ

■ 交通誘導のイメージ



■ 道の駅利用車両
(小型車) の動線



■ 道の駅利用車両
(大型車) の動線

